

2023年度 事業報告書

I 事業の成果

サポーター会員様による賛助と支援 および アーツカウンシルしづおか様と日本財団様の助成を いただいて取り組んだ、障害児者の生活の質の向上や働く環境の整備に寄与することを目的とした事業の成果は次の通りです。

①障害児者の役割づくり・仕事づくり・居場所づくり事業	
①-1 アートワークショップ 【アーツ1】	<ul style="list-style-type: none"> 静岡県立沼津西高等学校美術部および静岡県立田方農業高等学校ライフデザイン科セラピーコースの高校生による表現活動のサポートは、ファシリテーターの中津川浩章氏より教えていただいた『表現活動にはもうひとつの言語として価値があり、重要なコミュニケーションツールになる』ことを基本的な考え方として実施しました。 高校生サポーターに実施したアンケートでは「進学などにより参加できない」と回答された若干名を除く全ての高校生より「次回以降も参加を希望する」との回答を得ました。学校教育の一環としてアートワークショップが位置付けられ、障害理解が深まっていることを感じています。また、障害を抱える人たちの自己表現の場、地域にサポーターや理解者が増える場としての手ごたえを感じています。 表現活動サポーターとして参加いただいた高校生および表現者の保護者に対して実施したアンケート結果から、成果・反省点をまとめました。また、今後の継続的な開催やサポーター養成のため、アートワークショップやフィードバックの様子を11分の映像(※)にまとめました。これらの成果物を、次年度以降の継続的・発展的なアートワークショップの実施につなげていきます。 <p>※「心のままアートプロジェクト2023」アートワークショップ https://youtu.be/IxIPtL44d7E</p>
①-2 展覧会 【アーツ2】	<ul style="list-style-type: none"> 展覧会を観覧された方々より「人それぞれのこだわりや表現があることがわかった」「表現に障害は関係がないことを感じた」「健常者と障害者の壁を無くしたい」「障害のある人たちの活躍の場が増えることを願っている」といった声が寄せられ、障害を抱える人たちに対する理解の深まりを確認することができました。 「企業賞」として選定いただいた作品を社内展示した企業より「社内が明るくなった」「心が癒される」「従業員が喜んでいる」といった声が寄せられました。障害を抱える人の存在を身近に感じていただけ

	<p>たように思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 展覧会を観覧し「企業賞」への協力をいただいた企業より、次年度のアートワークショップに従業員を表現サポーターとして参加させたい旨の申し出がありました。 ・ 中津川浩章氏の講演会「障害がある人にとって表現することとは？」アートは世界を組み替える」の参加者より「障害の有無など関係のない社会にしていきたい」「アートが障害のある人の可能性を開くことを感じた」「その人にとって何をすることが幸せなのかと考えさせられた」「障害のある子どもの可能性を伸ばす取り組みに愛を感じた」「普段障害との関わりのない人や学校の先生たちに聞いてもらいたい」といった声が寄せられました。 ・ 田川誠氏のワークショップ「光のカーテンづくり」の参加者より「高校生のお姉さんと作業できて嬉しかった」「障害児者との交流は地域にとって大切なことだと思った」「みんなの作品をつなげていく作業が楽しかった」「初対面でも違和感なく一緒に楽しく絵を描くことができた」といった声が寄せられました。
<p>①-4 障害者雇用に関するトークシリーズ 【日本財団 1】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先駆事業について学び、障害者就労に関する理解が深まりました。 ・ 当事者家族をメインターゲットと考えて開催しましたが、実際の参加者の割合は、企業が3割／行政・学校関係者が3割／福祉事業所が2割／当事者家族が2割と、障害のある人を受け入れる立場の方々の割合が高い結果となりました。当事者家族の就労に対する意識はある程度の学年にならないと高まりにくい側面もあるため、それを踏まえた結果と考えています。 ・ トークシリーズ参加企業からの申し出により、同社が実施する社内DEIの取組について当法人が連携することとなりました。
<p>①-5 先進地域への現地視察会 【日本財団 2】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「これをすることが幸せである」はそれぞれであること、「彼ら自身が大切な価値ある存在であること」、「自分自身に忠実であることの大切さ、ありのままであることがユニークで素晴らしいこと」などの考え方や姿勢に、参加者一同が感銘を受けました。 ・ 県域を超えた多様な団体・個人同士のネットワーク形成に繋がり、視察会後も参加者間でSNS等による交流が続いている。
<p>②障害に関する情報の発信・ネットワークづくり事業</p>	
<p>②-1 相談室 【アーツ 3】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害を抱える子どもの発達についての悩みを共有し合うことができました。参加者からは「気持ちが楽になった」「今後も実施して欲しい」「良い繋がりができた」といった声が寄せられました。 ・ 普段、出会う機会の少なかった低年齢の障害を抱える子どもを持つお母さんたちとの繋がりを深めることができました。「保護者同士のネットワークがなく、相談する場所がなかった」との声をいただいた

	<p>おり、相談室がこうしたニーズの受け皿の一つになることを感じています。先輩ママの体験談が参考になったようで、会の前後で表情がすっかりと変わっていたのが印象的でした。</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談室の終了後も参加者同士がオンライン上で繋がっており、情報交換を続けています。また、2024年度も継続実施することが決まりました。
②-2 全国家族会のネットワークミーティング 【日本財団3】	<ul style="list-style-type: none"> 障害福祉サービスの提供をする側・受ける側の両方が参加する場となったことで、それぞれの立場で感じている課題認識や想いなどを話し合うことができました。 障害と関わる全国の多様な団体・個人の方々との繋がりができ、ネットワークミーティング終了後も、参加者間でSNS等による交流が続けています。 参加者間の繋がり強化や意見交換により生まれる気づきなどの効果を感じたことから、2024年度も継続実施することが決まりました。
②-3 子どもたちの就労を考える会 【日本財団4】	<ul style="list-style-type: none"> 多様な人たちが集まって一つの事例について話し合うことで、新しいアイデアや意見があがりました。例えば、母子分離について再考した上でアートに特化した静岡県外のB型事業所への体験や、就労継続支援A型もしくはB型を考えていた生徒が好きな分野の技術を習得するために職業訓練校にチャレンジ（その後合格）するなど、多様な進路の選択肢を提案することができました。 特別支援学校や行政職員だけでなく、企業やハローワーク関係者などの参加をいただけたことで、事業計画時に想定していたよりも多様な視点で事例を検討することができました。 本会の実施により、個々の特性に応じた進路の可能性が広がる効果を感じたことから、2024年度も継続実施することが決まりました。
③その他この法人の目的を達成するために必要な事業	
③-1 静岡県知事 広聴会への登壇	<ul style="list-style-type: none"> 当法人の取組について発表し、知事との意見交換もさせていただきました。今後の県政に活かしていただければ嬉しく思います。
③-2 日本財団「就労支援フォーラム2023」への登壇	<ul style="list-style-type: none"> 障害者就労に関わる全国の方々に、当法人による取組の内容をお伝えすることができました。登壇の前後で、会場の方々との情報交換もできました。今後の法人の運営に役立てていきます。
③-3 沼津市社会福祉協議会「中高生ふれあい交流事業」に企画・運営役として参画	<ul style="list-style-type: none"> これまで培ってきた経験を「講話／ワークショップ／アート作品の制作」の企画・運営に活かすことができました。引き続き、沼津市社会福祉協議会様が取り組んでいる地域福祉の推進にご協力できればと考えています。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事 業 名	事 業 内 容	実施 日 時	実施 場 所	従事者 の 人 数	受益対象 者の範囲 及び人數	支 出 額 (千円)
①障害児者の役割づくり・仕事づくり・居場所づくり事業	<p><u>①-1 アートワークショップ【アーツ1】</u></p> <p>障害を抱える人たちが表現活動をする場として、中津川浩章氏のファシリテートをいただきながら全4回のアートワークショップを実施。障害を抱える人たちが地域の高校生や多世代の人たちと交流し、サポートを受けながら作品を制作しました。</p>	6/17(土) 7/22(土) 8/2(土) 9/3(日) 13:00 ~16:00	沼津市 サンウェルぬまづ	10人	障害児者 (表現者) 延べ 84人 高校生 サポート 延べ 103人	
	<p><u>①-2 展覧会【アーツ2】</u></p> <p>アートワークショップや県東部地域の特別支援学校の授業などで創作した作品を展示。その際、サポート会員(協賛企業)30社に「企業賞」を選定いただき、作品を貸し出しました。</p> <p>期間中に実施する関連イベントとして、中津川浩章氏の講演会「障害がある人にとって表現することとは? アートは世界を組み替える」と田川誠氏のワークショップ「光のカーテンづくり」を実施。</p>	11/23 (木・祝) ~12/3(日)	沼津市 サンウェルぬまづ	10人	一般 観覧 1,000名 講演会 54人 ワーク ショップ 80名	5,469
	<u>①-3 展覧会(その他)</u>				実施しません。	

	<p><u>①-4 障害者雇用に関するトークシリーズ【日本財団1】</u></p> <p>櫛野展正氏・北澤桃子氏によるファシリテートのもとで、障害者就労に関する先駆者を講師に迎え、全5回のトークシリーズを開催。</p> <p>A) ICT×就労／池田円氏 (NTT ダイバーシティ推進室長) B) アート×就労／山下完和氏 (やまなみ工房 施設長) C) 農業×就労／鈴木厚志氏 (京丸園株式会社 代表取締役) D) デジタル化×就労／高橋宏和氏 (コロニー東村山 所長) E) 工賃向上×就労／小野貴也氏 (VALT JAPAN 株式会社 代表取締役 CEO)</p>	<p>7/5(水) 8/21(月) 10/11(水) 12/15(金) 1/27(土)</p> <p>13:30 ~15:00</p>	<p>沼津市 プラサ ヴェルデ</p>	<p>10人</p>	<p>一般 延べ オンライン 211人 オンライン 121人</p>
	<p><u>①-5 先進地域への現地視察会【日本財団2】</u></p> <p>障害者就労に関する先進地域として「やまなみ工房」を視察し、施設見学・交流や山下完和氏と櫛野展正氏のクロストーク講演を実施。</p>	<p>8/21(月) ~8/22(火)</p>	<p>滋賀県 甲賀市</p>	<p>12人</p>	<p>一般 18人</p>
②障害に関する情報の発信・ネットワークづくり事業	<p><u>②-1 相談室【アーツ3】</u></p> <p>精神科医として勤務するかたわら執筆や音楽活動も行う星野概念氏によるファシリテートのもとで、障害との関わりを持つ人たちが日頃悩んでいる内容や支援方法のアイデアなどについて情報交換・共有する相談室を3回実施。</p>	<p>8/4(金) 10/20(金) 12/1(金)</p> <p>13:00 ~15:00</p>	<p>沼津市 cafe/day</p>	<p>10人</p>	<p>障害児者の家族 延べ 16人</p>

	<p><u>②-2 全国家族会のネットワークミーティング【日本財団3】</u></p> <p>全国の家族会や一般の方々とのネットワークづくりを目的とした、オンライン意見交換会を2回実施。</p>	9/6(水) 2/12(月) 13:30 ～15:00	沼津市 プラサ ヴェルデ	10人	一般 延べ 17団体 25人
	<p><u>②-3 子どもたちの就労を考える会【日本財団4】</u></p> <p>行政/学校関係者・企業・ハローワーク関係者などの参画のもとで、障害のある人が個々の特性に応じて進路の可能性を広げるための課題の洗い出しを行う会を5回実施。6件の事例について話し合いました。</p>	6/7(水) 7/21(金) 9/22(金) 11/17(金) 1/19(金) 13:30 ～15:00	沼津市 プラサ ヴェルデ	7人	障害を抱える子を持つ保護者 7人
	<p><u>③-1 静岡県知事 広聴会への登壇</u></p> <p>静岡県知事 広聴会「平太さんと語ろう」に登壇し、「『夢』ぼくの色を探して」というテーマで発表しました。</p>	7/19(水) 13:30 ～15:00	沼津市 沼津市立 図書館	1人	一般 50人
③その他この法人の目的を達成するため に必要な事業	<p><u>③-2 日本財団「就労支援フォーラム2023」への登壇</u></p> <p>日本財団「就労支援フォーラム2023」に一般選考で登壇し、「就労選択支援に向けて」というテーマで発表しました。</p>	12/16(土) 13:00 ～19:30	東京都 渋谷区 ベルサー ル渋谷フ アースト	2人	一般 800人
	<p><u>③-3 沼津市社会福祉協議会 「中高生ふれあい交流事業」 に企画・運営役として参画</u></p> <p>「障害について」講話した後、お菓子作りのワークショップとアート作品の制作による交流を実施しました。</p>	2/23 (祝・金) 9:30 ～15:00	沼津市 サンウ エルぬ まづ	1人	中高生 35人